

第5章 市街地環境評価

地区の現況整理とアンケート調査結果をもとに、地区の中で保全が望まれる要素や環境を阻害する要素、不足している要素などを抽出し、下表にまとめた。

要素区分		評	価
保全環境要素 (都市生活に欠かせない既存の空間や施設で、保全が望まれるもの)	自然環境	虹の松原や鏡山といった良好な景観資源	唐津市の代表的な景勝地として、保全・育成が求められる。
	農業生産	平坦地・丘陵地に広がる優良農地	果樹などの生産活動を観光・景観資源として活用し、地域ブランド化を進めることが求められる。
環境阻害要素 (都市生活の安全を妨げる要素で、可能ならば取り除くことが望まれるもの)	土地利用	横田上・横田下における農住混在	農地転用によって虫食いの進む住宅開発を規制・誘導していく必要がある。
	景観形成	国道 202 号の沿道市街地	虹の松原風致地区と鏡山公園風致地区に囲まれた地域として、沿道景観を規制・誘導していく必要がある。
		浜崎海岸の環境再生	砂浜が侵食されている海岸の再生に向けた取り組みを行う必要がある。
	災害危険性	玉島川や横田川の沿川	集中豪雨時の治水対策としての河川改修や、浸水予想区域の都市基盤整備が必要である。
不足環境要素 (より良好な都市生活を営むうえで、付け加えるべきもの)	公共交通	浜崎駅のバリアフリー化	駅舎改築（バリアフリー化）により下り線ホームなどの利便性を向上させる必要がある。
		交通結節点としての浜崎駅	浜崎駅における鉄道・路線バス・タクシー・一般車の結節点機能の強化と、駐車・駐輪スペースの拡充が必要である。
	道路交通	浜崎駅周辺の歩行者ネットワーク	ＪＲ浜崎駅における南北間の歩行者ネットワークが形成されておらず、駅南北の連携強化により利便性を向上させる必要がある。
			浜崎駅周辺道路の歩道整備が必要である。
	身近な公園	施設の不足	住民のレクリエーションや、災害時の避難場所としての身近な公園が不足している。
	商業サービス	機能の不足	高齢社会に対応した、徒歩圏における商業サービス施設の確保が求められる。
	地域交流	施設の再生	住民のコミュニティ活動ニーズに合わせた、中央公民館や浜玉支所などの再生と活用が求められる。
	情報発信	浜崎駅や浜玉インター周辺	地区及び唐津市の玄関口として、地域の情報を発信する拠点機能の導入が求められる。
	景観形成	駅前景観の形成	地区の顔となる浜崎駅前の景観整備と、浜崎駅から海岸へ抜ける道路の魅力化が求められる。
	地域振興	企業の誘致	市民アンケートでは現在の生活環境において、「働き場所の多さ」に対する不満足度が各項目中で最も高くなっている。商業・業務・生産施設などの「働き場所」の確保が求められる。

第6章 整備課題の抽出

1. 整備課題の抽出

上位・関連計画の整理、浜崎駅周辺地区の現況把握、市民アンケート、並びに、地域住民で組織するまちづくり検討委員会を行い、地区の問題点を洗い出し、整備課題の抽出を行った。

① 整理した上位・関連計画

- ・唐津都市計画区域マスタープラン（佐賀県策定）
- ・唐津市総合計画
- ・唐津市都市計画マスタープラン
- ・唐津市交通バリアフリー基本構想
- ・唐津市論点データ集

② 浜崎駅周辺地区の現況把握項目

- ・地区の成り立ち
- ・地形・水系
- ・現況土地利用
- ・人口・世帯数動向
- ・主要施設の立地状況
- ・建物・都市施設の状況
- ・洪水ハザードマップ
- ・道路ネットワーク
- ・公共交通ネットワーク
- ・法規制状況
- ・地価の推移状況
- ・景観形成状況

③ 市民アンケートの調査項目

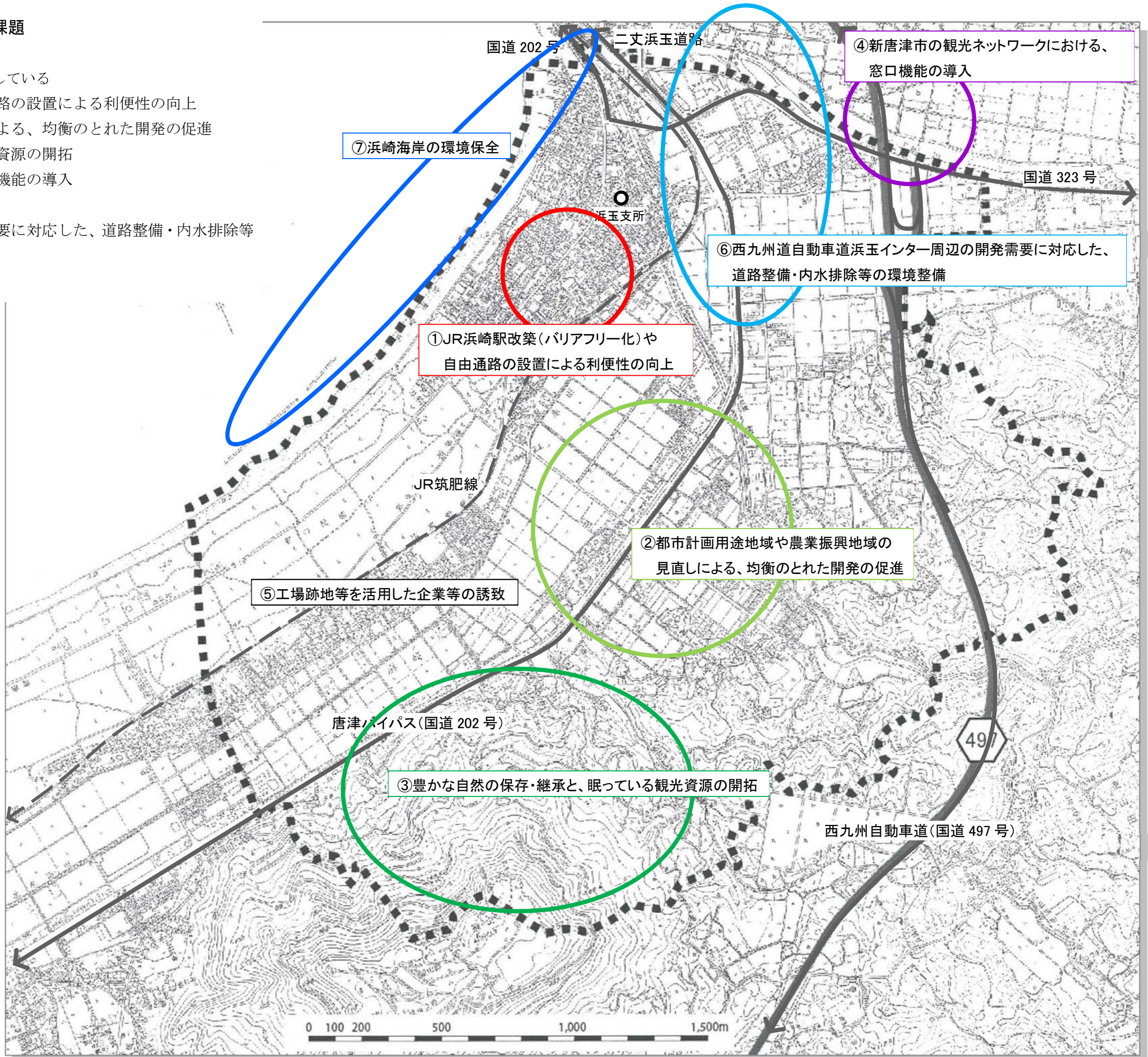
- ・回答者の属性
- ・現在の生活環境に関する満足度
- ・今後のまちづくりにおいて特に大切な項目
- ・調査対象地区の環境についての問題点
- ・浜崎駅やその周辺の環境についての問題点
- ・地区の将来像
- ・自由記述

④ 浜崎駅周辺地区まちづくり検討委員会

- ・まちづくりの課題について検討委員会の中で検討を行った

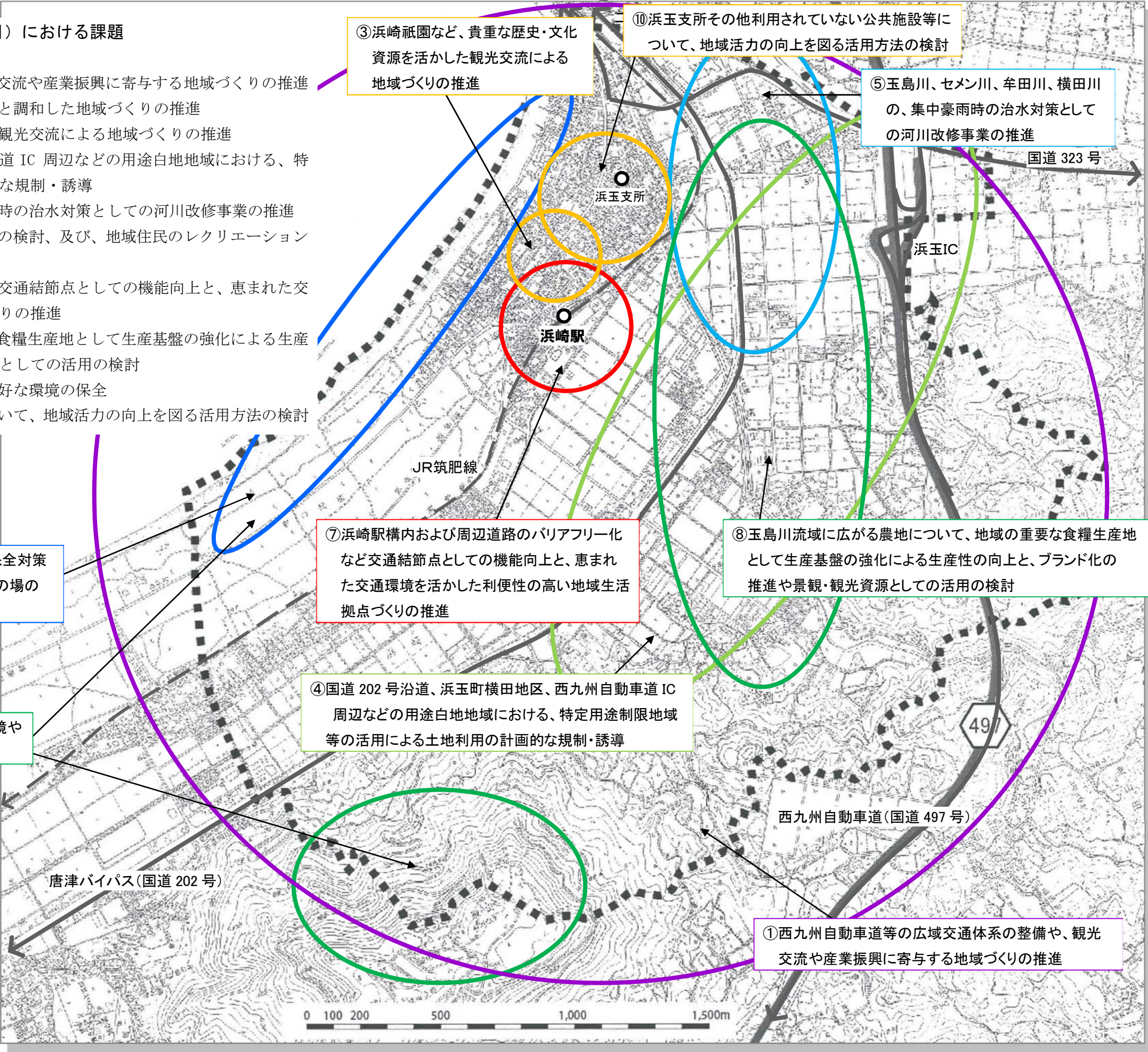
2. 唐津市総合計画（平成 18 年 3 月）における課題

- ※「施策の展開」内容を課題として整理している
- ① J R 浜崎駅改築（バリアフリー化）や自由通路の設置による利便性の向上
 - ② 都市計画用途地域や農業振興地域の見直しによる、均衡のとれた開発の促進
 - ③ 豊かな自然の保存・継承と、眠っている観光資源の開拓
 - ④ 新唐津市の観光ネットワークにおける、窓口機能の導入
 - ⑤ 工場跡地等を活用した企業等の誘致
 - ⑥ 西九州道自動車道浜玉インター周辺の開発需要に対応した、道路整備・内水排除等の環境整備
 - ⑦ 浜崎海岸の環境保全



3. 唐津市都市計画マスタープラン（平成 22 年 12 月）における課題

- ①西九州自動車道等の広域交通体系の整備や、観光交流や産業振興に寄与する地域づくりの推進
- ②虹の松原や鏡山などの地域固有の自然環境や景観と調和した地域づくりの推進
- ③浜崎祇園など、貴重な歴史・文化資源を活かした観光交流による地域づくりの推進
- ④国道 202 号沿道、浜玉町横田地区、西九州自動車道 IC 周辺などの用途白地地域における、特定用途制限地域等の活用による土地利用の計画的な規制・誘導
- ⑤玉島川、セメン川、牟田川、横田川の、集中豪雨時の治水対策としての河川改修事業の推進
- ⑥浜崎海岸における砂浜侵食要因の究明と保全対策の検討、及び、地域住民のレクリエーションの場の確保と美しい海辺の景観の保全
- ⑦浜崎駅構内および周辺道路のバリアフリー化など交通結節点としての機能向上と、恵まれた交通環境を活かした利便性の高い地域生活拠点づくりの推進
- ⑧玉島川流域に広がる農地について、地域の重要な食糧生産地として生産基盤の強化による生産性の向上と、ブランド化の推進や景観・観光資源としての活用の検討
- ⑨風致地区に指定されている虹の松原、鏡山の、良好な環境の保全
- ⑩浜玉支所その他利用されていない公共施設等について、地域活力の向上を図る活用方法の検討



4. 交通バリアフリー基本構想における課題

- ① 駅前に幅広のグレーチング、入口部にドアサッシによる段差、誘導ブロックが駅構外まで連続していないなど、ユニバーサルデザイン上の問題点があること。
- ② 反対ホームに行くためには階段（線路横断橋）の昇り降りが必要であること
- ③ 改札口・ベンチとホームの間に大きな横断勾配（改札口前で 13.1%）があること
- ④ 駅利用者の 47.5%が「エレベーターがない」と考えている（アンケート結果）こと

5. 唐津市論点データ集（平成 25 年 3 月）における課題に関わる論点

- ①【論点 2】 自家用車の普及、人口減少等により公共交通（路線バス、乗合タクシー）の利用者が減少し、事業者による運営が厳しい状況となっている。
- ②【論点 3】 駅やバス停留所から観光地等への移動手段が、タクシーの他に選択肢がない。観光地、中心市街地及び駅周辺の駐車場が少ない。
- ③【論点 9】 新たな公園整備の計画はなく、現状維持となっている。平成 19 年度における市民アンケートの結果、「地域特性を活かした公園」や「身近な公園広場の整備」が求められている。
- ④【論点 17】 唐津市の高齢化の状況は、全国、佐賀県全体と比較しても高く、今後も 65 歳以上の高齢者人口は増加するものと推定されている。
- ⑤【論点 20】 一次産業の就業者数は減少している。農地の荒廃や他用途への転用が増えている。
- ⑥【論点 24】 製造業は事業所数、従業者数ともに減少しており、出荷額はほぼ横ばい傾向にある。大量雇用につながるような企業（製造業の工場等）が少ない。
- ⑦【論点 25】 唐津市の商店数、従業者数、商品販売額は、卸売業、小売業ともに減少している。また、従業者 1 人あたりの年間小売販売額も減少している。
- ⑧【論点 26】 観光入込み客数は平成 20 年をピークに減少している。アンケート調査では唐津は認知度が高いものの、情報発信が十分でなく居住意欲度も低い。

6. 市民アンケート調査結果による問題点

①【問 11】地区全体の環境問題点

- 1 位：浜崎駅北側の商店街の賑わいが感じられない：19%
- 2 位：商業施設の種類や商店数が少ない：15%
- 3 位：夜間に安心して歩くことができない：9%
- 4 位：浜崎駅南北の連携が不十分：9%
- 5 位：公園・広場などが不十分：9%
- 6 位：地震や火災、洪水等の災害への備えが不十分：7%

- ・全ての町で、「浜崎駅北側の商店街の賑わいが感じられない」ことを問題点の1位に挙げている。
- ・2位はほとんどの町が「商業施設の種類や商店数が少ない」ことを挙げているが、横田下だけが「夜間に安心して歩くことができない」ことを挙げている。
- ・線路の北側（浜崎・北側）では「浜崎駅南北の連携が不十分」であることを3位に挙げている。
- ・線路の南側では「夜間に安心して歩くことができない」、「公園・広場などが不十分」であることを3位に挙げている。

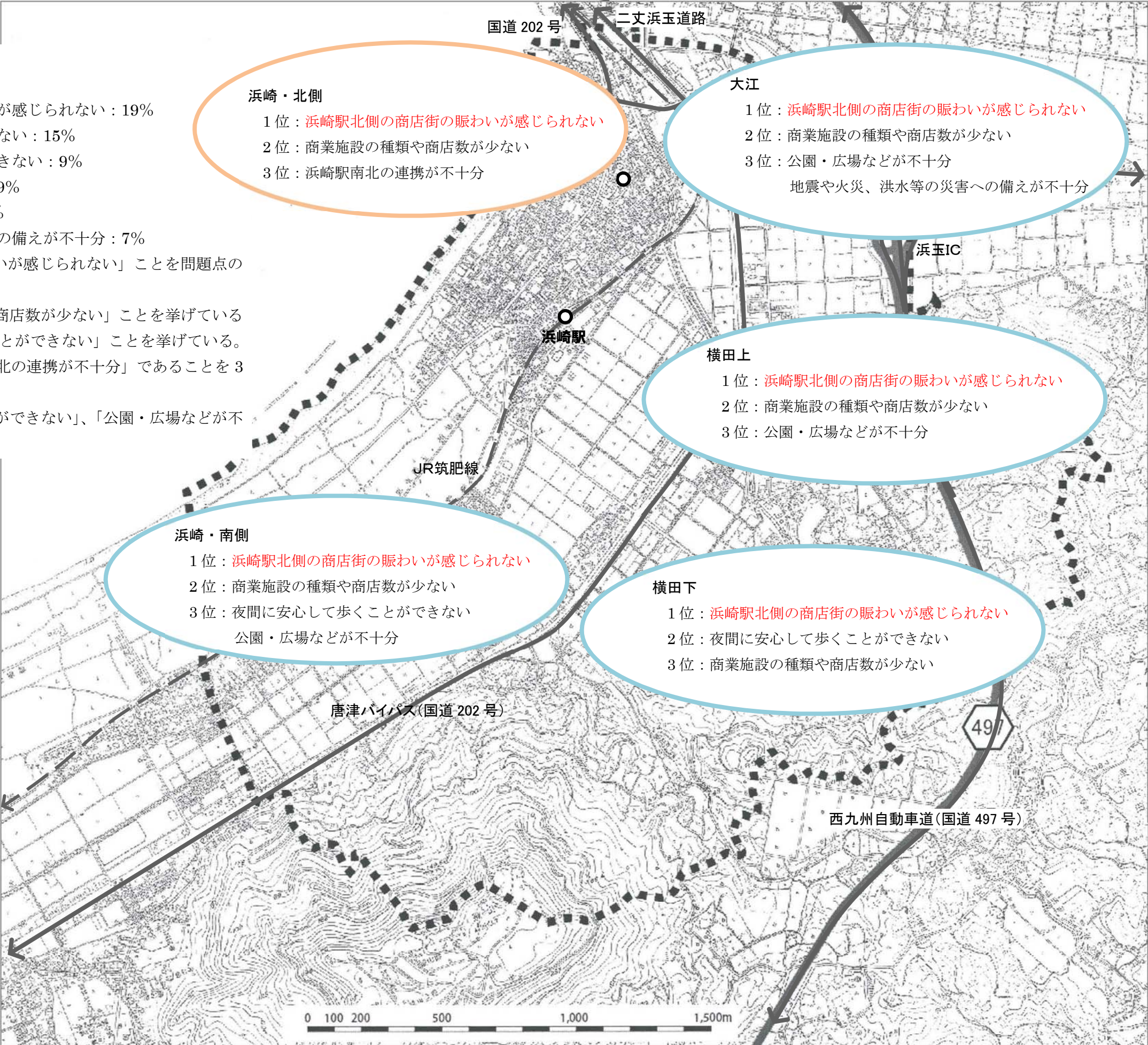
■線路の北側・南側でのクロス集計結果

線路の北側（浜崎北側）

- 1 位：浜崎駅北側の商店街の賑わいが感じられない
- 2 位：商業施設の種類や商店数が少ない
- 3 位：浜崎駅南北の連携が不十分
- 4 位：地震や火災、洪水等の災害への備えが不十分
- 5 位：自然環境や歴史資源の保全・活用が不十分

線路の南側（浜崎南側・横田上・横田下・大江）

- 1 位：浜崎駅北側の商店街の賑わいが感じられない
- 2 位：商業施設の種類や商店数が少ない
- 3 位：夜間に安心して歩くことができない
公園・広場などが不十分
- 5 位：浜崎南北の連携が不十分



②【問 12】浜崎駅やその近辺の環境問題点

- 1 位：浜崎駅の近くに駐車場が少ない：18%
 - 2 位：歩道橋（跨線橋）が階段なので利用しづらい：15%
 - 3 位：歩道橋（跨線橋）に屋根が無い：13%
 - 4 位：南側の改札口が無い：12%
 - 5 位：浜崎駅前にベンチや広場など休憩・待ち合わせできるスペースが少ない：8%
 - 6 位：バス等への乗り継ぎが分かりにくい：7%
 - 7 位：浜崎駅と商店街の連携が不十分（駅北側商店街への案内施設、歩行者動線など）：7%
- ・町別の意見では、多くが「浜崎駅の近くに駐車場が少ない」ことを問題点の 1 位に挙げているのに対し、線路の北側（浜崎・北側）では「歩道橋が階段である」ことを 1 位に挙げている。

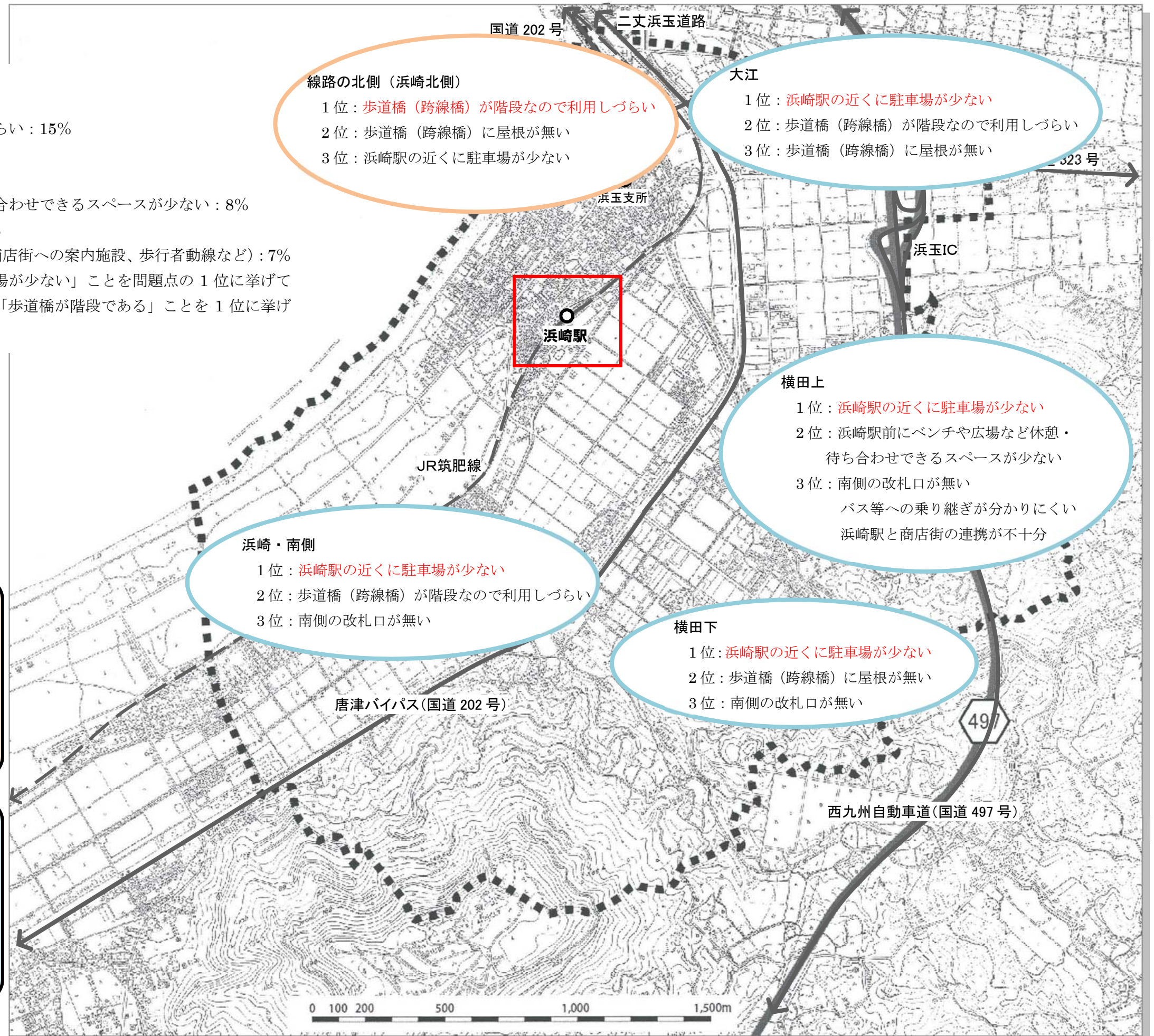
■線路の北側・南側でのクロス集計結果

線路の北側（浜崎北側）

- 1 位：歩道橋（跨線橋）が階段なので利用しづらい
- 2 位：歩道橋（跨線橋）に屋根が無い
- 3 位：浜崎駅の近くに駐車場が少ない
- 4 位：南側の改札口が無い
- 5 位：浜崎駅と商店街の連携が不十分

線路の南側（浜崎南側・横田上・横田下・大江）

- 1 位：浜崎駅の近くに駐車場が少ない
- 2 位：歩道橋（跨線橋）が階段なので利用しづらい
- 3 位：南側の改札口が無い
- 4 位：歩道橋（跨線橋）に屋根が無い
- 5 位：バス等への乗り継ぎが分かりにくい
休憩・待ち合わせできるスペースが少ない



③【問 13】地域振興に必要な取り組み

「特に必要」や「必要」と回答があった割合は、「浜崎駅とその近辺の整備」や「浜崎海岸、玉島川、虹の松原、鏡山などの自然環境の保全・活用」が91%と最も高い。

一方、「優良農地の保全」を「特に必要」や「必要」と回答した割合は、68%と比較的低い。

②浜崎駅とその近辺の整備
(特に必要+必要と回答があった割合: 91%)
1位: 駅南北の連絡通路の整備: 31%
2位: 駅前広場の整備: 29%

⑥浜崎海岸、玉島川、虹の松原、鏡山などの自然環境
の保全・活用 (特に必要+必要と回答があった割合: 91%)
1位: 浜崎海岸の砂浜保全: 48%
2位: 虹の松原再生に向けた市民協働の取組み: 21%

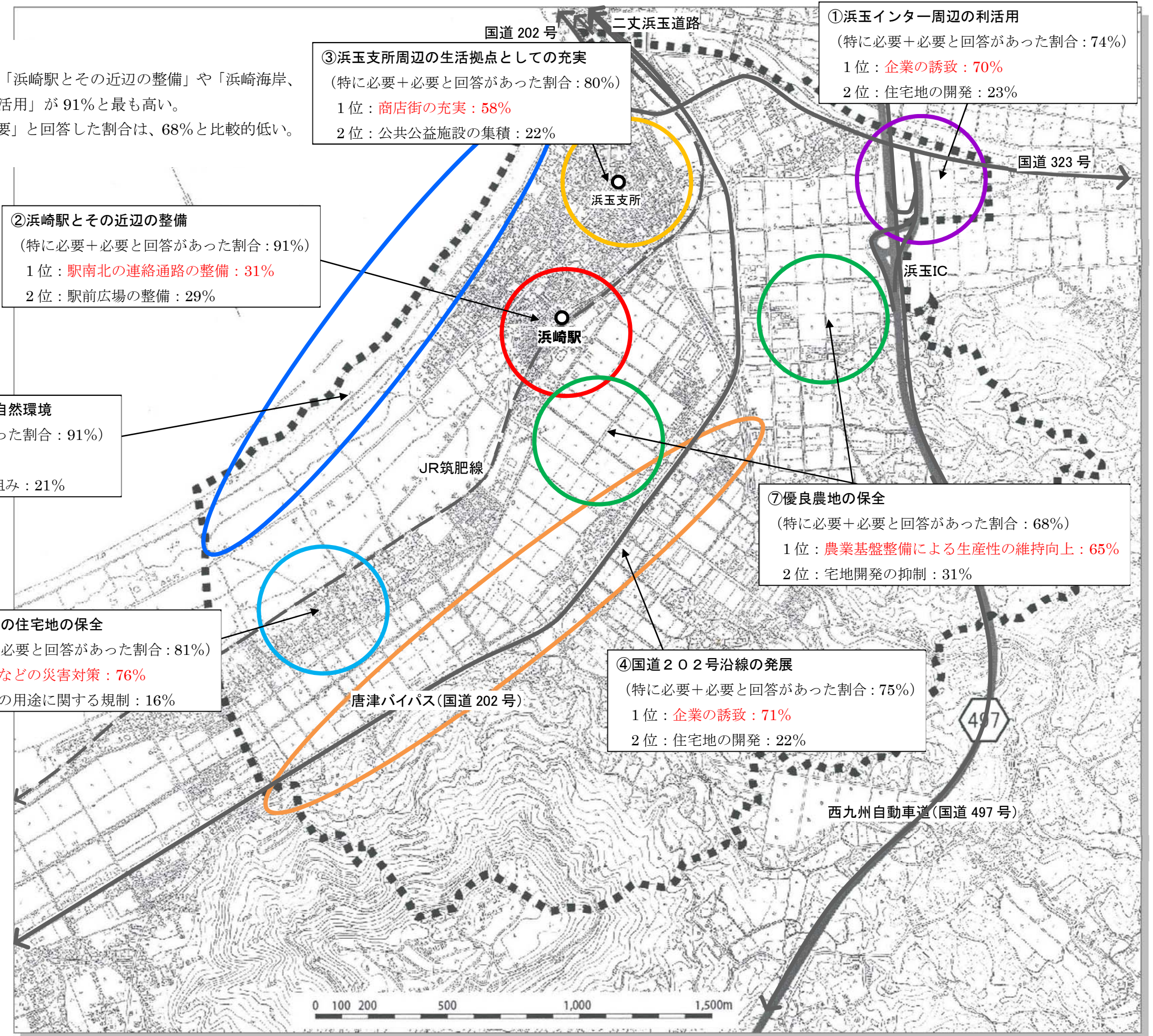
⑤良好な環境の住宅地の保全
(特に必要+必要と回答があった割合: 81%)
1位: 洪水などの災害対策: 76%
2位: 建物の用途に関する規制: 16%

③浜玉支所周辺の生活拠点としての充実
(特に必要+必要と回答があった割合: 80%)
1位: 商店街の充実: 58%
2位: 公共公益施設の集積: 22%

①浜玉インター周辺の利活用
(特に必要+必要と回答があった割合: 74%)
1位: 企業の誘致: 70%
2位: 住宅地の開発: 23%

⑦優良農地の保全
(特に必要+必要と回答があった割合: 68%)
1位: 農業基盤整備による生産性の維持向上: 65%
2位: 宅地開発の抑制: 31%

④国道202号沿線の発展
(特に必要+必要と回答があった割合: 75%)
1位: 企業の誘致: 71%
2位: 住宅地の開発: 22%



7. 地区の整備課題

(1) 上位・関連計画及び市民アンケートから抽出した整備課題

総合計画① JR 浜崎駅改築（バリアフリー化）や自由通路の設置による利便性の向上

都市マス⑧ 浜崎駅構内および周辺道路のバリアフリー化など交通結節点としての機能向上と、恵まれた交通環境を活かした利便性の高い地域生活拠点づくりの推進

交通バリアフリー① 駅前に幅広のグレーチング、入口部にドアサッシによる段差、誘導ブロックが駅構外まで連続していないなど、ユニバーサルデザイン上の問題点があること。

- ② 反対ホームに行くためには階段（線路横断橋）の昇り降りが必要であること
- ③ 改札口・ベンチとホームの間に大きな横断勾配（改札口前で 13.1%）があること
- ④ 駅利用者の 47.5%が「エレベーターがない」と考えている（アンケート結果）こと

論点データ① 【論点 2】自家用車の普及、人口減少等により公共交通（路線バス、乗合タクシー、離島航路）の利用者が減少し、事業者による運営が厳しい状況となっている。

- ② 【論点 3】駅やバス停留所から観光地等への移動手段が、タクシーの他に選択肢がない。観光地、中心市街地及び駅周辺の駐車場が少ない。

市民アンケート① 【問 11】地区全体の環境問題点

→4 位：浜崎駅南北の連携が不十分

- ② 【問 12】浜崎駅やその近辺の環境問題点

→1 位：浜崎駅の近くに駐車場が少ない

2 位：歩道橋（跨線橋）が階段なので利用しづらい

3 位：歩道橋（跨線橋）に屋根が無い

4 位：南側の改札口が無い

6 位：バス等への乗り継ぎが分かりにくい

- ③ 【問 13】地域振興に必要な取り組み

→「特に必要」や「必要」と回答があった割合は、「浜崎駅とその近辺の整備」が最も高い。

- ③ 【問 13】地域振興に必要な取り組み

→浜崎駅とその近辺の整備の 1 位は「駅南北の連絡通路の整備」

課題 1:

浜崎駅のバリアフリー化や駅南北の連携強化による利便性の向上と、交通結節点や町の顔としての機能の強化

論点データ③ 【論点9】新たな公園整備の計画はなく、現状維持となっている。平成19 年度にとられた市民アンケートの結果、「地域特性を活かした公園」や「身近な公園広場の整備」が求められている。

④ 【論点17】唐津市の高齢化の状況は、全国、佐賀県全体と比較しても高く、今後も65 歳以上の高齢者人口は増加するものと推定されている。

⑦ 【論点 25】唐津市の商店数、従業者数、商品販売額は、卸売業、小売業ともに減少している。また、従業者1人あたりの年間小売販売額も減少している。

市民アンケート① 【問 11】地区全体の環境問題点

→1 位: 浜崎駅北側の商店街の賑わいが感じられない

2 位: 商業施設の種類や商店数が少ない

5 位: 公園・広場などが不十分

市民アンケート② 【問 12】浜崎駅やその近辺の環境問題点

→5 位: 浜崎駅前にベンチや広場など休憩・待ち合わせできるスペースが少ない

7 位: 浜崎駅と商店街の連携が不十分(駅北側商店街への案内施設、歩行者動線など)

課題 2:

まちなかにおける、高齢社会に対応した徒歩圏の商業サービス施設や身近な公園の確保

都市マス③ 浜崎祇園など、貴重な歴史・文化資源を活かした観光交流による地域づくりの推進

⑪ 浜玉支所その他利用されていない公共施設等について、地域活力の向上を図る活用方法の検討

論点データ⑤ 【論点 20】一次産業の就業者数は減少している。農地の荒廃や他用途への転用が増えている。

⑧ 【論点 26】観光入込み客数は平成 20 年をピークに減少している。アンケート調査では唐津は認知度が 高いものの、情報発信が十分でなく居注意欲度も低い。

市民アンケート③ 【問 13】地域振興に必要な取り組み

→浜玉支所周辺の生活拠点としての充実の 1 位は「商店街の充実」

課題 3:

中央公民館や浜玉支所などにおける、住民のコミュニティ活動ニーズや観光客ニーズに合わせた再生と活用

総合計画③ 豊かな自然の保存・継承と、眠っている観光資源の開拓

⑦ 浜崎海岸の環境保全

都市マス② 虹の松原や鏡山などの地域固有の自然環境や景観と調和した地域づくりの推進

⑦ 浜崎海岸における砂浜侵食要因の究明と保全対策の検討、及び、地域住民のレクリエーションの場の確保と美しい海辺の景観の保全

⑩ 風致地区に指定されている虹の松原、鏡山の、良好な環境の保全

市民アンケート③ 【問 13】地域振興に必要な取り組み

→「特に必要」や「必要」と回答があった割合は、「浜崎海岸、玉島川、虹の松原、鏡山などの自然環境の保全・活用」が最も高い。

③ 【問 13】地域振興に必要な取り組み

→浜崎海岸、玉島川、虹の松原、鏡山などの自然環境の保全・活用の 1 位は「浜崎海岸の砂浜保全」

課題 4:

虹の松原の市民参加による保全・育成の推進や、浜崎海岸の砂浜再生による環境保全

総合計画⑥ 西九州道自動車道浜玉インター周辺の開発需要に対応した、道路整備・内水排除等の環境整備

都市マス⑥ 玉島川、セメン川、牟田川、横田川の、集中豪雨時の治水対策としての河川改修事業の推進

市民アンケート① 【問 11】地区全体の環境問題点

→6 位:地震や火災、洪水等の災害への備えが不十分

③ 【問 13】地域振興に必要な取り組み

→良好な環境の住宅地の保全の 1 位は「洪水などの災害対策」

課題 5:

集中豪雨時における浸水予想区域の解消に向けた、河川改修や都市基盤整備

総合計画④ 新唐津市の観光ネットワークにおける、窓口機能の導入

⑤ 工場跡地等を活用した企業等の誘致

⑥ 西九州道自動車道浜玉インター周辺の開発需要に対応した、道路整備・内水排除等の環境整備

都市マス① 西九州自動車道等の広域交通体系の整備や、観光交流や産業振興に寄与する地域づくりの推進

論点データ⑥ 【論点 24】製造業は事業所数、従業者数ともに減少しており、出荷額はほぼ横ばい傾向にある。
大量雇用につながるような企業(製造業の工場等)が少ない。

⑧ 【論点 26】観光入込み客数は平成 20 年をピークに減少している。アンケート調査では唐津は認知度が高いものの、情報発信が十分でなく居住意欲度も低い。

市民アンケート③ 【問 13】地域振興に必要な取り組み

→浜玉インター周辺の利活用の 1 位は「企業の誘致」

課題 6:

浜玉インター周辺地区における、唐津市の玄関口としての窓口・情報提供機能の導入や、流通・生産施設など「働く場」の誘致

総合計画② 都市計画用途地域や農業振興地域の見直しによる、均衡のとれた開発の促進

都市マス④ 国道 202 号沿道、浜玉町横田地区、西九州自動車道 IC 周辺などの用途白地地域における、特定用途制限地域等の活用による土地利用の計画的な規制・誘導

課題 7:

横田上・横田下地区、国道 202 号沿道、浜玉インター周辺における、豊かな自然環境と調和のとれた土地利用の計画的な規制・誘導

総合計画② 都市計画用途地域や農業振興地域の見直しによる、均衡のとれた開発の促進

都市マス④ 国道 202 号沿道、浜玉町横田地区、西九州自動車道 IC 周辺などの用途白地地域における、特定用途制限地域等の活用による土地利用の計画的な規制・誘導

市民アンケート③ 【問 13】地域振興に必要な取り組み

→国道202号沿線の発展の1位は「企業の誘致」

課題 8:

国道 202 号の沿道地区における、良好な道路景観の規制・誘導と、商業・業務施設など「働く場」の誘致

都市マス⑨ 玉島川流域に広がる農地について、地域の重要な食糧生産地として生産基盤の強化による生産性の向上と、ブランド化の推進や景観・観光資源としての活用の検討

市民アンケート③ 【問 13】地域振興に必要な取り組み

→優良農地の保全の1位は「農業基盤整備による生産性の維持向上」

課題 9:

優良農地における果樹生産など、農業の観光・景観資源としての活用と、地域ブランド化

(2) 第1回浜崎駅周辺まちづくり検討委員会による、課題関連の意見要旨

(※印は後日に寄せられた意見)

- 浜崎駅南口の改札口設置は、町の発展のため最低の条件である。※
- 駅の利便性向上が人口増へとつながるはずである。
- 高速バスの運行による影響もあり、浜崎駅の乗降客数は減ったものと考えられる。
- 朝のラッシュ時は駅周辺の道路は送り迎えの車で結構混雑するため、自由通路が開設された場合は、北側地区にもプラス面の影響があると考えられる。
- 浜崎駅南側のJ Aの施設がどうにかならない限り、整備は進まないであろう。
- 自由通路と南側の道路、国道202号をうまくつなぐことができるかが課題である。
- 浜崎駅だけでなく、小学校にむかう道の踏切等も関連して整備を行わなければ、問題が解決しないのではないかな。

課題1（浜崎駅のバリアフリー化や駅南北の連携強化による利便性の向上と、交通結節点や町の顔としての機能の強化）に関する意見

- 浜・東・西地区における商店の活性化のためには、今後業種を考えなければならない。※
- 浜・東・西といった浜玉町の旧中心部（内町地区）は人口が減っている。
- 浜崎駅の南北通路が開通されることによる、北側地区へのデメリットについても考慮する必要がある。

課題2（まちなかにおける、高齢社会に対応した徒歩圏の商業サービス施設や身近な公園の確保）に関する意見

- 浜崎海岸は砂浜の浸食により、海開きをしても海水浴客も殆ど来ていない状況にある。

課題4（虹の松原の市民参加による保全・育成の推進や、浜崎海岸の砂浜再生）に関する意見

- 新しく空地のある、砂子、横田上、横田下地区をどうするかが課題である。※
- 今後のことを考えると、横田下で生まれた子ども達に定住していただくことがとても重要である。

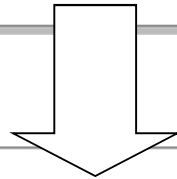
課題7（用途地域無指定区域である横田上・横田下地区、国道202号沿道、浜玉インター周辺における、豊かな自然環境と調和のとれた土地利用の計画的な規制・誘導）に関する意見

- 国道 202 号沿い等に企業立地が進んできているが、このような要素も加味しながらまちづくりを進めていくべきである。

課題 8（国道 202 号の沿道地区における、良好な道路景観の規制・誘導と、商業・業務施設など「働く場」の誘致）に関する意見

- 浜玉町の住み易さをアピールする、ハード・ソフト両面での施策と強い実行力が必要であり、その一環として駅周辺開発がなければならない。※
- この先人口が増え、安心して生活できるために雇用が増え、仕事が増え活力が出てくるような、住んで良かったと思えるような浜玉町になれば良い。※
- 駅だけに特化せず、広いエリアの中で課題と取組みの方向性を考えていくべきと考える。
- ＪＲに浜崎駅整備の要望をするにも、地域全体を含めたまちづくりの方針をもとにした乗降客数の増加策がなければ話が進まない。

まちづくり全体の考え方に関する意見



- 定住環境の改善に向けた、まちづくり全体の考え方が必要である。

- 人口増・乗降客増につながる定住
環境整備の一環として、
 - 「浜崎駅周辺の都市基盤整備」
 - 「雇用の場の創出」
 - 「自然環境の保全・再生」が位置付けられるべきである。

前述の視点による、抽出課題の整理

課題 1 : 浜崎駅のバリアフリー化や駅南北の連携強化による利便性の向上と、交通結節点や町の顔としての機能の強化による、乗降客・駅空間利用者の増加

課題 2 : まちなかにおける、高齢社会に対応した徒歩圏の商業サービス施設や身近な公園の確保による、商店街の賑わい再生と、人口減の抑制

課題 3 : 中央公民館や浜玉支所などにおける、住民のコミュニティ活動ニーズや観光客ニーズに合わせた再生と活用による、交流環境の充実化

課題 4 : 虹の松原の市民参加による保全・育成の推進や、浜崎海岸の砂浜再生、鏡山の自然環境や観光交流施設の保全・再生による、地域魅力の向上

課題 5 : 集中豪雨時における浸水予想区域の解消に向けた、河川改修や都市基盤整備による、安全・安心まちづくりの推進

課題 6 : 浜玉インター周辺地区における、唐津市の東の玄関口としての窓口・情報提供機能の導入や、流通・生産施設など「働く場」の誘致による、定住人口及び流入人口の確保

課題 7 : 用途地域無指定区域である浜崎地区、横田上・横田下地区、国道 202 号沿道、浜玉インター周辺における、豊かな自然環境と調和のとれた土地利用の計画的な規制・誘導や身近な公園整備等による、定住環境の整備

課題 8 : 国道 202 号の沿道地区における、良好な道路景観の規制・誘導と、商業・業務施設など「働く場」の誘致による、定住人口及び流入人口の確保と活力創造

課題 9 : 農業生産基盤の強化、優良農地の保全を図り、食料生産地として生産基盤の向上、農業の観光・景観資源としての活用を図る

【参考】課題のウェイト付け

	唐津市 総合計画	唐津市都市計画 マスタープラン	交通バリアフ リー基本構想	唐津市論点 データ集	市民アン ケート調査	第 1 回検討委 員会の意見	言及されて いる数
課題 1	○	○	○	○	○	○	6
課題 2				○	○	○	3
課題 3		○		○	○		3
課題 4	○	○			○	○	4
課題 5	○	○			○		3
課題 6	○	○		○	○		4
課題 7	○	○				○	3
課題 8	○	○			○	○	4
課題 9		○			○		2

8. 地区の整備課題図

